

埼玉探訪 中・北部地区のいまを紹介

熊谷市

日本経営士会埼玉支部

10月熊谷で全国会議 300人近く来場見込み



日本経営士会埼玉支部は埼玉県内で活躍する経営コンサルタントらによる組織。賛助会員を含め約90人が加盟している。活動は月1回の研修会が中心。講師に企業支援の事例などを紹介してもらい、会員のレベルアップを図っている。8月に開いた研修会のテーマはホスピタリティ。小林敏雄支部長は「毎回、時流に即したテーマを設定している」と強調する。

2010年からは毎年、展示商談会「彩の国ビジネスアリーナ」に出展。同支部による出前研修などをPRしている。

日本経営士会は10月13・14日に、熊谷市のホテルヘリテイジで「第46回経営士全国研究会議埼玉大会」を開く。この研究会議で同支部は、主管を担当。来場者数300人近くを見込んでいる。

▽連絡先＝048・706・6555

深谷市

花園フォレスト

バームクーヘンなど約750種を販売 アウトレットが好調



花園フォレストは、敷地内の工場で製造する洋菓子の直売店。バームクーヘン、ケーキ、クッキーなど計750種近くの商品を販売している。2011年にはアウトレット販売を開始。以来、「客数が急激に増えている」（藤野豊一フォレスト社長室長）という。毎月第2水曜日のアウトレット特売日には、普段以上に低価格で商品を提供している。

店内のカフェ「ピエール・ド・ロンサール」では、平日の15時以降限定でスイーツバイキングを実施中。大人1人800円で、さまざまな種類のケーキやドリンクなどを好きなだけ味わえる。

店舗は花園インターチェンジ（IC）から車で約2分の場所に立地。埼玉県外からも多くの購買客が訪れている。

▽連絡先＝0120・412・771

熊谷市

熊谷小麦産業クラスター研究会

100メートルの“流しうどん” 熊谷小麦をPR



熊谷小麦産業クラスター研究会は、全国有数の小麦生産地である熊谷の魅力を発信する組織。松本邦義会長は「熊谷小麦は品質が安定しており、歴史もある。もっと多くの人に認知してもらいたい」と話す。メンバーは、地元の有志者ら20人前後。同地産小麦を原料とした「熊谷うどん」の普及促進などを図っている。

今年度は、9月9日に熊谷市内の熊谷スポーツ文化公園で開かれる「わくわくスボまつり」の会場で、長さ100mの巨大“流しうどん”を催す。当日は計2回実施する予定で、開始時刻は14時と15時。参加料金は子供が200円、大人が300円。親子連れなど200組近くの参加を見込んでいる。

▽連絡先＝048・521・4600（熊谷商工会議所内）

熊谷市

ニャオざね

ニャオざね参上 熊谷市をゆるっと盛り上げる



ニャオざねは熊谷市の市民活動イメージキャラクターで、7月には「ゆるっとくまがや盛り上げ担当主査」として市の職員に任命された。いつもニコニコしながら、地域を盛り上げるべくイベントなどに登場。市内外を元気に飛び回っている。

黄色いTシャツと白地に赤い水玉模様のズボンがトレードマーク。大好物はご当地グルメの「熊谷うどん」とかき氷「雪くま」で、とにかく黄色くてま〜るいものには目が無いのだとか。

将来の夢は「ライオンになるのもいいけど市長にもなりたい」（ニャオざね）。これからも、ニャオざねの活躍から目が離せない！

▽ニャオざね日記＝www.city.kumagaya.lg.jp
▽連絡先＝048・524・1111（同市市民活動推進課）

鴻巣市

鴻巣市商工会青年部

打ち上げ総数1万5000発超 9月29日開催



鴻巣市商工会青年部が市内の糠田運動場と荒川河川敷で開く「こうのす花火大会」は、地元住民にとって年1回の恒例行事。11回目を迎える今年は、9月29日に開催する。

今回は「誇りを胸に！がんばれ鴻巣！目指せ日本一！」がテーマ。打ち上げ総数1万5000発超を予定している。入場無料。

開会は18時。30万人近くが来場する見通し。

会場はJR高崎線鴻巣駅西口から徒歩約30分。無料駐車場あり。場所取り不要の有料観覧席を1万2000円で予約できる。

雨天の場合は30日に延期する予定。

▽連絡先＝048・543・1634▽後援＝鴻巣市、鴻巣市商工会▽協力＝同商工会青年部OB会、同商工会女性部、鴻巣市消防団

深谷市

埼玉工業大学

学生主体の子供向け理科教室 地元小学校で好評



埼玉工業大学の「集まれ！科学実験教室プロジェクト」は、学生による地元小学生向けの体験型理科教室。工学部4年の浅見秀和代表は「先生の力を借りず、学生主体で取り組んでいる」と話す。現在、45人の学生が参加している。

対象は、深谷市立岡部小学校など地元小学校の児童たち。液体窒素で花を凍らせるなど各種科学実験を披露し、好評を博している。「子供たちの“理科離れ”を“理科場慣れ”に変えたい」と浅見代表は意気込む。

16日には、東京工業大学や東京大学の学生らと共同で科学実験教室を開いた。「これを機に他大学との協力関係を深め、プロジェクトの成長につなげたい」（浅見代表）としている。

▽連絡先＝048・585・2521（埼玉工業大学代表）

熊谷市

埼玉縣信用金庫

小学生が対象の就業体験 新人たちが企画・運営



埼玉縣信用金庫は毎年7～8月に、埼玉県内に住むの小学生らにお金について学んでもらう「さいしん夏休みキッズスクール」を開いている。内容はクイズや預金の疑似体験など。「リピーターが多く、夏休みの自由研究の課題にする子供もいる」（人事部人材開発グループ）という。

今年度は新たな試みとして、就業体験学習を実施。参加した子供たちは、接客、印鑑照合、札勘定など金融機関の内勤業務を体験した。会場には「いらっしゃいませ」、「ありがとうございます」など元気のいい声が響き渡った。

同スクールの企画・運営を担うのは、4月に入庫した新人たち。「新人研修の一環。チームワークの醸成などにつながる」（同）としている。

▽連絡先＝048・526・1111

行田市

十万石ふくさや

「うまい、うまさぎる」の菓子メーカー 計40店の直営店



十万石ふくさやは「うまい、うまさぎる」の菓子メーカー。キャッチフレーズで知られる行田市の菓子メーカー。まんじゅう、どら焼き、モンブランなど計数百種の和洋菓子を手がけている。

埼玉県内38店、群馬県内2店の直営店を出店済み。「埼玉で十万石ブランドが定着している」と横田康介社長は胸を張る。現在、店舗は県の北部・中部地域が中心。このため、県南地域での新規出店も検討している。

強みは機械化により効率を高めた独自の生産システム。これにより、材料にこだわった品を低価格で提供している。

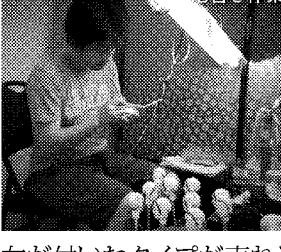
創業は1952年。今年で60周年を迎える。2代目の横田社長は「今後も地元のお客さまを大事にし、何代も続く菓子屋にしたい」と意気込む。

▽連絡先＝048・556・1275

鴻巣市

広田屋

創業102年の老舗人形製造元 職人技能の向上へ



約380年前から人形製作が行われている鴻巣市は、「ひな人形のふるさと」として知られる。広田屋は、同市内で1910年に創業したひな人形の製造・販売業者。年間1万～2万セットを出荷している。

斉藤義夫社長は近年のトレンドについて「飾り台が三段で三人官女が付いたタイプが売れる傾向にある」と分析。秋からのオンシーズンに向け、価格帯が15万～30万円前後の三段飾り商品を充実させる方針だ。

中でも特に人気なのが小型で高級な商品。「職人にとって難易度の高い品物が売れる」（斉藤社長）という。このため、ここ数年は職人一人ひとりの技能向上に注力。製法などに関して職人同士が意見交換する研修会を、定期開催している。

▽連絡先＝048・541・8888

熊谷市

県立熊谷工業高等学校

女子高生大工が県大会優勝！



県立熊谷工業高等学校建築科3年の戸井田愛美さんが、第6回高校生ものづくりコンテスト埼玉県大会「木材加工部門」で優勝した。同部門で女性が優勝するのは珍しく、戸井田さんは「本番に強いのか、集中して大会に臨めた」と結果を振り返る。

工作が好きでものづくりに興味があり、工業高校の建築科に進んだ。大会では指定された課題を制限時間内に製造し、出来栄を競う。戸井田さんは151センチと小柄ながら柔軟な身のこなしと、素早い木材加工技術で高得点をマークした。手のひらにはマメがある。「特別運動をしているわけではありませんが、自然と腕に筋肉がつきました」と笑う。

趣味はエレクトロ。高校卒業後は高校で学んだことを生かし、住宅などの施工図面を書く仕事に就きたいという。

▽連絡先＝048・523・3354（県立熊谷工業高等学校代表）

行田市

行田市

忍城おもてなし甲冑隊



映画「のぼうの城」が11月2日に全国公開される。これに合わせて、作品の舞台である行田市では観光客や地域活性化のため主人公・成田長親ら武将をモデルにした「忍城おもてなし甲冑隊」を結成した。関東七名城の一つとして知られる忍城や郷土博物館などで市の魅力を伝えたり、一緒に記念撮影をしたりと積極的に活動している。

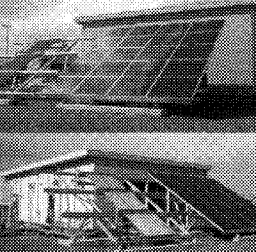
甲冑隊は主人公ほか、甲斐姫、正木丹波守利英ら8人で構成する。特に、土日に「戦国サミット」など全国で開催される各種イベントにも参加。今では追っかけファンがいるほどの人気ぶりだ。

▽連絡先＝048・556・1111（市環境経済部観光プロジェクト推進室）

本庄市

本庄国際リサーチパーク研究推進機構

JR本庄早稲田駅前でエネルギー管理システム運用実験開始



本庄国際リサーチパーク研究推進機構は早稲田大学環境総合研究センターなどと連携し、商業施設におけるエネルギー管理システムの運用実験を始めた。JR上越新幹線「本庄早稲田駅」近くに商業施設を再現した店舗を2棟建設。分散電源で発生させた熱や電力を店舗間で融通する。実験期間は約2年。電力会社の系統電源と比較し二酸化炭素を20％削減する計画だ。

同機構は自然エネルギーを活用した産学官による街づくり「本庄スマートタウンプロジェクト」を開始。同駅周辺地区の土地区画整備事業に合わせて次世代型商業施設、スマートハウスなどの構築を目指している。

▽連絡先＝0495・24・7455（同機構）

上尾市

上尾ものづくり協同組合

約120社の異業種交流団体 人材確保に注力



上尾ものづくり協同組合は、上尾市内の企業で構成する異業種交流団体。現在、賛助会員を含め約120社が加盟している。

2010年度には、埼玉県の助成金を活用し、人材確保推進事業を開始。セミナー開催や就業規則モデルの作成などを通じて組合員の職場環境を高め、雇用の円滑化を図っている。

今年度は9月中旬に、上尾商工会議所と共同の中国・上海視察会を開く。組合員ら20人以上が参加する見通し。

また、11月10・11日に同市内の上平公園で開かれる「第39回あけおせ産業祭」には、組合としてブース出展する方針。「組合員の製品・技術を多くの人にアピールしたい」（黒澤久理事長）としている。

▽連絡先＝048・775・3007

鴻巣市

関東工業自動車大学校

第11回埼玉県高校生エコカーコンテスト開催



手作りの低燃費車を走らせ燃費を競う「第11回埼玉県高校生エコカーコンテスト」が関東工業自動車大学校で開催された。県内工業高校など12校の機械科や自動車部の生徒らが出場し、今年度は川口工業高等学校機械研究部Aチームが総合優勝した。

エコカーはあらかじめ50ccオートバイのエンジンを搭載することが決められている。参加校各チームは燃費向上のため、車体軽量化や空気抵抗の少ないデザインを考案するなど独自のアイデアを取り入れる。同校の行木裕二教頭は「生徒が目標を持って活動できる場となっている」と大会の意義を語る。

同大会は毎年、埼玉新聞社とテレビ埼玉が共催し同校がレース場を提供している。9月1日には第13回高校生ロボットコンテストが開かれる予定。

▽連絡先＝048・596・3555（関東工業自動車大学校）

熊谷市

八木橋百貨店

2階にセレクトショップをオープン 若年層の来店増加目指す



八木橋百貨店は20～30代の女性をターゲットにしたセレクトショップ「RESONANCE」を9月13日、2階フロアにオープンする。「ズッカ」や「ツモリチサト」など人気ブランドの洋服や雑貨を取りそろえる。都内のセレクトショップで勤務経験のある人材が店長、販売スタッフを務め、ファッションや流行に敏感な女性客のニーズに応える。

同百貨店は創業115年の老舗で地元・熊谷市や深谷市、行田市、鴻巣市のほか、群馬県太田市、伊勢崎市、栃木県足利市など県外から足を運ぶ顧客も多い。地域に根ざしたサービスや独自のイベント企画で他社と差別化を図っている。40代以上がメイン顧客だが、近年は若年層の取り込みも強化している。

▽連絡先＝048・523・1111（八木橋百貨店）

行田市

サーパス工業

開発力が強み 国内シェア約8割を確保



サーパス工業は今年で設立30周年を迎える行田市の半導体、理化学関連機器メーカー。4月には記念式典を開き、節目の年を祝った。

主力は、半導体・液晶関連分野で用いられる各種薬液の供給用コネクタや流量調整バルブなど。同分野で主流のフッ素樹脂製コネクタでは、国内シェア8割近くを確保している。

近年は輸出も好調。14年程前の海外向け販売開始以後、着実に実績を伸ばし、今や売り上げの2割以上を輸出が占めている。「台湾、韓国、米国などに輸出している」（今井弘社長）という。

国内での累計特許出願数が約130件に達するなど、開発力が強み。「今後もニーズにあった製品を開発し続けたい」と今井社長は意気込む。

▽連絡先＝048・554・9760

第46回経営士全国研究会議 埼玉大会

平成24年10月13日（土）～14日（日）
埼玉県熊谷市 ホテル・ヘリテイジ

第3回 ビジネス・イノベーション・アワード
表彰式同時開催

上田知事講演テーマ「埼玉が日本を再生する」

参加費：10,000円（研究会議、論文集、懇親会費を含む）
宿泊費及び2日目の昼食代は含みません。

申込先：社団法人 日本経営士会
電話：03-3239-0691 FAX：03-3239-1831

おかげさまで50周年 総合板金加工メーカーが提供する感動

3次元設計から試作・部品加工・塗装・組み立て・検査までの一貫生産が当社の強みです。ただ品物を納めるだけでなく、ものづくりを通じてお客様に感動を提供することが理念であり、当社の目標です。

<http://www.takasuka-ss.co.jp/>

株式会社 高須賀製作所

〒362-0066 埼玉県上尾市領家1136-7
TEL.048-726-1400 FAX.048-781-1710

各種力・関係の製作も承ります。

●工作機械 ●特殊車輦 ●食品機械
●産業車両 ●空調機器 ●半導体製造装置
●空港設備 ●医療機器 ●建設機械

レーザー加工
板金・溶接・製缶加工
3次元CNC加工

ISO9001:2008 認定取得

